

あぐりめ〜る新川

第50号(平成23年3月発行)
富山県新川農林振興センター
〒938-0801 黒部市荻生3200
(TEL) 担い手支援課 (0765) 52-0268
(0765) 52-5192
農業普及課 (0765) 52-0094
(0765) 52-0945
(FAX) (0765) 52-3115



＝50号の発刊に際して＝

プロ農家情報誌“あぐりめ〜る新川”を発行しつづけて50号を迎えることができましたのは、ご愛読いただいた皆様のお力添えがあったからこそと感謝申し上げます。

この情報誌は、平成8年に農業普及センターが組織再編したのを機に地域の担い手のみなさんへタイムリーな情報や技術などを発信する手段として企画したものです。

これからも初心を忘れることなく、より一層、皆さんに有益な情報を発信していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

農業者戸別所得補償制度の本格実施に向けて ＝大豆、米粉用米、WCS用稲の取組ポイント＝

昨年の戸別所得補償モデル対策は、「水田利活用自給力向上事業」と「米戸別所得補償モデル事業」がセットで実施されたところです。23年度からの農業者戸別所得補償制度は、米のモデル対策事業はそのまま引き継がれますが、畑作物にも対象を拡大し、数量払いを基本とする新たな仕組みが導入されることとなっています。

この制度によって、交付額が左右される大豆と面積の拡大が予想される米粉用米、WCS用稲の留意点についてまとめてみました。

1 大豆について

高単収、高品質生産が所得向上の決め手です！

大豆等の畑作物については、「水田活用の所得補償交付金」（表1）に加え、**数量払と面積払（営農継続支払）**を柱とする「**畑作物の所得補償交付金**」が交付されます。

表1 水田活用の所得補償交付金の交付単価

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	3.5万円/10a
米粉用米、飼料用米、WCS用稲	8.0万円/10a
そば、なたね、加工用米	2.0万円/10a

※実需者等との出荷・販売契約等を締結すること、出荷・販売することが要件

<畑作物の所得補償交付金の仕組み>

- ①面積払が前年産の生産面積に基づき、10a当たり2万円が夏の段階で交付
- ②収量が確定してから数量払の交付額を確定し、①により交付された面積払の交付額を差し引いた額が追加で交付 ※単価は等級毎に設定

<ポイント>

畑作物の所得補償交付金制度は、**収量が高いほど、また高品質なものほど交付額は増える仕組み**となっています（表2）。また当然、**販売金額も増えることから経営的に有利なもの**となります。

表2 単収や品質の違いによる水田活用の所得補償交付金額の比較例（大豆）

単収(10a)	品質	交付単価(60kg当たり)	交付金額
250kg	3等	10,800円	10,800円/60kg×250/60=45,000円
100kg	特定加工	10,120円	10,120円/60kg×100/60=16,866円 ※算出額が20,000円を下回るため、交付金額は20,000円となる。

○単収や品質の違いにより、10アール当たり交付金額は2万5千円の差がある。
 ○仮に10ヘクタール栽培していたら、250万円もの違いがでてくる。さらに、販売金額での違いも大きい！

2 米粉用米について

需要に見合った計画生産・供給がとても大切です！

新川地域で生産される米粉用米は、大半が黒部市の（株）SS製粉で製粉され、県内外の製パン業者等に供給されています。今年の新川地域での作付は、（株）SS製粉の要望や消費者ニーズ等から約30ヘクタール増の200ヘクタールとなり、品種は**コシヒカリを中心に取り組む**ことになっています。

なお、新川産米を使った米粉入りパンが多くの店舗で販売されることを期待しています。

<ポイント>

- ①収穫した米粉用米は、篩（ふるい）下も含めて一般米とはなりません。**全量出荷**しましょう。
- ②収量・品質の安定と効率的で低コストな生産を行うため、基本技術の励行に努めるとともに**団地での作付けや直播栽培**で取り組みましょう。

3 WCS（ホールクロップサイレージ）用稲について

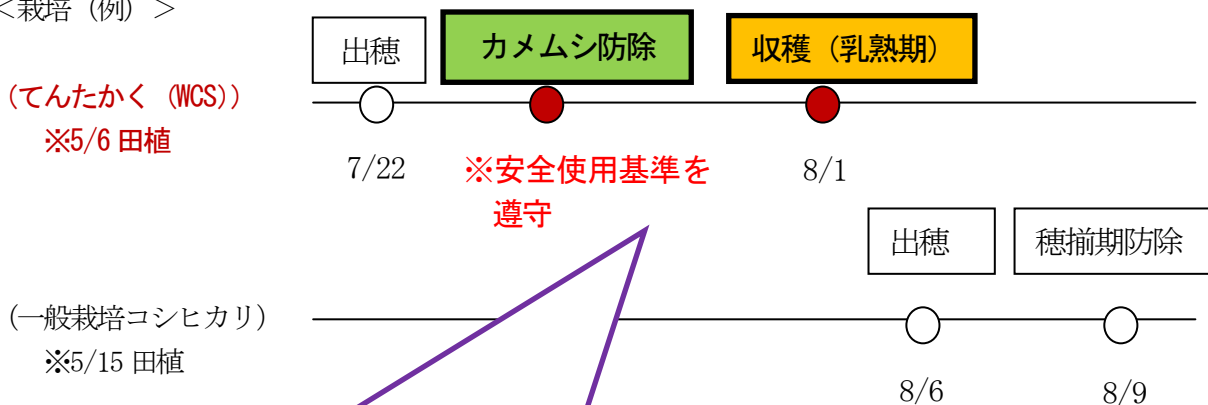
WCS用稲は、WCS用稲用の農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！

WCS用稲については、畜産農家と耕種農家の連携により栽培面積が大幅に増加していますが、特に、周辺の一般稲にカメムシ等の被害を及ぼさないように注意しましょう。

<ポイント>

- ①WCS用稲栽培ほ場から近隣の一般稲栽培ほ場に対して、**いもち病や斑点米カメムシ**など病害虫による被害が発生しないよう、計画的な防除を行いましょ。
- ②使用農薬については、**安全使用基準を遵守するとともにWCS用稲での残留性試験や乳汁移行試験をクリアしたものを選定**しましょう。

<栽培（例）>



早生品種（てんたかく）をWCS用稲として栽培することにより、

- 乳熟期で収穫できるため、WCSとしての栄養価が高い。
- 収穫前にカメムシ防除を行うため、周辺の一般栽培コシヒカリへの影響が少ない。

（万が一、周辺ほ場へカメムシが飛び込んでもその後防除が行われるため、被害を最小限に防ぐことができる。）

名誉挽回！！ 米の品質向上を目指して
 ～ポイントは、「積極的な土づくり」と「的確な水管理」～

平成 22 年産米の反省

平成 23 年産米の重点対策

<品質が低下した要因>

<栽培上の問題点と対策>

初期茎数の不足

◇栽植密度の低下
 ◇初期の水管理不足

☆早期の目標茎数の確保

<スタートダッシュが肝心>
 ◎坪当たり 60～70 株植えを基本（疎植防止）
 ◎植付け深さ：3cm 程度（深植え防止）
 ◎田植後の浅水管理の徹底

中干しの遅れ・不徹底

◇茎数不足により中干し開始が遅れ

◇中干しが不十分で葉色の低下が緩慢

1 穂粒数の増加

☆適正な 1 穂粒数への誘導

<早めの中干しで葉色をコントロール>
 ◎6 月 8～10 日頃（7.5～8 葉期）に中干しを開始
 ◎中干し以降は葉色に応じた間断かんがい

乳白粒の発生

◇地力の低下による登熟不足

☆高温登熟の回避

☆登熟の向上とカドミウム吸収抑制

<8 月 5 日以降に出穂期させるために>
 ◎5 月 15 日を中心とした田植えの実施

<こまめな水管理が登熟を高める>
 ◎出穂後 20 日間の湛水管理の徹底

☆高温に負けない土づくり

<腐植含量の向上、根圏の拡大>
 ◎土壤改良資材や堆肥等の有機物を積極的に施用
 ◎プラウや深耕ロータリによる作土深の確保（作土深：15cm 以上）

思い込み！ チューリップ切花販売提案のすすめ

春の訪れと共に、色とりどりのチューリップ切花が出荷されていますが、このように華麗なチューリップ切花を経営に導入するに際して、**切花の市場流通**を把握することが大切です。

1 チューリップ切花の流通について

富山で冬の切花生産量No. 1 といえばチューリップ切花です。県内では12～4月のシーズン中に150万本生産されます。生産された切花は主に市場に出荷されますが、贈答品や直売等、販売方法は様々です。

新川管内の黒東チューリップ切花出荷組合では、主に東京都大田市場へ出荷しています。大田市場では、新潟県や埼玉県等の大規模なチューリップ切花産地からも入荷しており、黒東のチューリップを売り込むには、それら産地との差別化が必要となります。



大田花き市場のセリ場の様子

2 市場でのニーズと産地PR

富山県の特産であるチューリップ球根は、昭和10年代に導入され、70年以上栽培の歴史があります。その中で球根生産者によって民間育成された品種が数多くあり、切花品種としても高い評価を受けており、当組合でもそれらの育成品種を切花で市場へ出荷しています。

今年で6回目となりますが、毎年2月の第2週には「チューリップ王国とやま in 東京」と題して県内産地が連携して大田花き市場でのイベントを行っています。

今回は黒東チューリップ切花出荷組合で生産している「楊貴妃^{ようきひ}」という名前のチューリップ切花品種にスポットを当てて産地PRを展開しました。「楊貴妃」は市場の仲卸や小売、デザイナー等を対象に行ったアンケートでは常に上位を占める人気品種で、入善町の球根生産者が育成したという育成経過をストーリーとして付加しPR展開しました。



富山県 黒東チューリップ切花出荷組合

1. あなたの県産を教えてください。
 a. 生花店 (48) b. 仲卸 (11) c. 加工業者 (0) d. スクール (16) e. その他 (7)

2. あなたがチューリップ切花を購入する際、敬遠する理由のうちのどれですか？
 (上位3つまで)

	1位	2位	3位	計
a 切り替がゆるい	9	10	9	28
b 切り替が短い	2	4	1	7
c 切り替が不揃い	3	2	2	7
d 葉長	13	12	4	29
e 花もぐり	1	2	4	7
f 花切れ	3	4	6	13
g 花の色(黄色不良、遠色等)	16	5	9	30
h 葉先痛み	13	8	10	31
i 葉切れ	5	7	3	15
j 葉裏が黒いかい	14	14	12	40
k 葉裏が黒い	0	0	1	1
l 汚れ	8	9	7	24
m ポリウム不足	4	6	6	16
n その他	気にならない、色不揃い、開花しづらい			

3. あなたのチューリップの個性を何で判断していますか？
 a. 花色の濃化 (23) b. 葉の色のきれい (22) c. 全株 (47) d. その他 (葉長、開花など)



切花展示とPRポスターを掲示し立体的な展示をしかけるとともに、アレンジメントするデザイナーや小売向けに「楊貴妃」がもつ性質が判るようなチラシ等も作成・配布しました。

3 常に販売提案すること

このような市場への産地アピールは「生産者が卸や仲卸・小売・消費者を意識し栽培しています」と働き掛けている姿勢を印象づけています。生産者が購買を意識した栽培や荷造りを心掛けることになり、もちろん市場での購買力アップのきっかけにもなります。

このように生産者側から常に販売提案することはたいへん重要です。農林振興センターでは生産者が行う切花販売の市場向けPRや、HP開設による直売手法の検討等、様々な取り組みに対して支援しています。



市場内の仲卸通り

魚津市農協における「ねぎ」産地づくりの取り組みについて

県は、新たに野菜等の大規模産地化を目指した「1億円産地づくり支援事業」に取り組み、品目選定や販売戦略の作成支援に努めております。

この一環として魚津市農協では、富山県の新しい野菜としてブランド強化が図られつつある「ねぎたんJ」を中心に「ねぎ」を戦略品目の一つとして位置づけ、一大産地化を目指した取り組みが始まったところです。

1 産地の概要

魚津市内の「ねぎたんJ」の栽培は、平成20年に2組織・3経営体により作付面積40aでスタートしました。平成22年11月には「JA うおづねぎ出荷組合」が設立し、今年、新たに取り組む3組織を含め、5組織・5経営体により栽培面積が1haに拡大する予定です。今後は機械化を図り、より一層の作付け拡大に取り組むこととしています。

2 「ねぎたんJ」について

ねぎの長さが、普通の白ねぎ(全長58cm、軟白30cm以上)よりも短いサイズ(全長40cm、軟白20cm程度)で、各家族向けの一度に使いきれのサイズが特徴で、消費者のニーズに即したく白ねぎ>です。良食味の特徴を持つ、富山県育成のオリジナル品種(越中なつ小町、越中ふゆ小町)を奨励し、出荷先は、県内はもとより、中京、東京市場と年々拡大してきています。



3 産地拡大に向けた取り組み

(1) 計画生産・出荷に向けた栽培計画の策定と遵守

「ねぎたんJ」は、2Lサイズ35円/本、Lサイズ30円/本を目標に値決めして販売が行われています。このことから、市場ニーズに対応した生産量を計画的に出荷する必要があります。そこで、播種前に各生産者が生産計画を策定し、時期別出荷量を遵守することが大切です。

(2) 先進地視察

昨年11月に「ねぎ」の先進産地である滑川市の大浦宮農組合で視察研修を行いました。「ねぎ」の栽培面積が4ha以上の大規模産地で、圃場選定方法・栽培方法・省力機械導入等、産地拡大に向けて多くの情報を得ることができました。

(3) 機械化による省力化の推進

「ねぎ」は、野菜の中でも比較的機械化が進んでいることから、主穀作経営体でも取り組みやすい品目と言えます。今後、栽培管理や選別調整のための機械導入が計画されており、競争力のある産地育成を目指しています。

(4) 組織化による産地の強化

「JA うおづねぎ出荷組合」を設立し、定期的に栽培講習会や意見交換会を開催して組合員の資質向上に努めています。また、生産・出荷時に協力し合える「連帯意識の強い組織」が形成されようとしています。



JA うおづねぎ出荷組合設立総会

4 次年度以降の取り組み

「ねぎ」の大規模産地育成に向け、農林振興センターは、農協等、関係機関と緊密な連携を図り、新規生産者でも取り組みやすい栽培技術の普及や出荷組合活動支援等に努めることとしています。